

宮城山岳通信 第24号

目次

巻頭言	支部長・・・・・・・・・・2頁
宮城支部令和3年度通常総会議事録	事務局・・・・・・・・・・2~3頁
定例役員会報告	事務局・・・・・・・・・・3~4頁
宮城支部山行報告	
☆梅雨払い山行（青麻山）（共益事業）	千石信夫・・・・・・・・・・4頁
☆初夏山行（関山街道）（共益事業）	草野洋一・・・・・・・・・・5頁
☆夏山山行（翁山<翁峠>）（共益事業）	太田 正・・・・・・・・・・5~6頁
支部以外の関係行事参加報告	事務局・・・・・・・・・・6頁
三角点 「山名考」	鳥山文蔵・・・・・・・・・・6~7頁
今後の行事予定	事務局・・・・・・・・・・7頁
原稿募集のお知らせ	会報・編集出版委員会・・7頁
編集後記	会報・編集出版委員長・・7頁

巻 頭 言

支部長 千石 信夫

昨年に引き続きコロナは猛威を振るい、水害も西日本では、ここ 100 年で最多の雨量と聞きました。地球規模で大変な災害が発生していて、日本各地の水害ニュースが、耳に入るたびに最近の気候変動の大きさには驚かされます。

120 周年記念事業での古道調査が開始され、私は峠や街道などの歴史本を遅まきながら読んでいます。街道沿いの史跡や石碑には、病気の快癒祈願や雨乞いの祈願などが記されており、古の時代では飢饉や疫病に侵され、路頭に迷い、道端などで命を落とさざるを得なかった時代では、神仏に頼らざる負えない気持ちは、今を生きている私たちも実感として湧いてくるのではないのでしょうか。

年を重ねてきて何かと郷土の歴史に興味を持ち始め、古道調査もあいまって、私なりにこれからもこの機会に郷土の歴史資料を読み携えて、その時代に思いを馳せながら古道を歩き、楽しみたいと思っています。

宮城支部事業では、公益事業は年度初めに中止を宣言しておりました。共益事業である支部山行は、感染予防に十分注意しながら活動してまいりましたが、このたび宮城県は、まん延防止重点措置を 8 月 20 日から適用することに決まりました(8 月 27 日から緊急事態宣言)。大変悩ましいことですが、昨年の緊急事態宣言時とは明らかに状況が悪化していることを踏まえ、私は宮城支部としては自粛することで、この状況を乗り越えていきたいと考えております。今後は状況を見ながら、まずは支部山行をどのようにコロナとの共存を図り、復活させていくか考えていきたいと思っています。また、皆様のご意見もお寄せいただければ嬉しく思います。

支部行事が思うように遂行できない中、この「宮城山岳通信」もメールでの配信という形を採ることになりました。会員、準会員、

支部友の皆様への情報発信は続けていければと思っています。

最後に、感染予防対策を遵守し、健康にお過ごし下さるようお祈り申し上げます。

【宮城支部令和 3 年度通常総会議事録】

1. 日時 令和 3 年 4 月 26 日 (日)
2. 場所 宮城支部事務局宅+メール
3. 議決権を有する会員総数 38 名
4. 出席者 (メール) 12 名 委任状 13 名
合計 25 名
(出席者は過半数を超え総会は成立)
5. 審議事項
 - 第 1 号議案 令和 2 年度事業報告 (案) 承認の件
 - 第 2 号議案 令和 2 年度収支決算報告 (案)承認の件
 - 第 3 号議案 令和 3 年度事業計画 (案) 承認の件
 - 第 4 号議案 令和 3 年度収支予算 (案) 承認の件
 - 第 5 号議案 宮城支部規約一部改正 (案) 承認の件
 - 第 6 号議案 役員の改選 (案) 承認の件
6. 議事の経過の概要及び議決の結果
冨塚和衛宮城支部長が規約に基づき議長につき、上記議案についてメールで審議を行った。議長は第 1 号議案から第 6 号議案について、一括メールによりメール出席者に諮ったところ、第 1 号議案から第 6 号議案について、出席者 12 名のうち過半数を超える出席者から承認する旨のメール等があり、依って議案についてはすべて承認された。
なお、監査報告は会計監事草野洋一、横山哲押印の書類をもって監査報告として承認された。
議長は、以上をもってメールによる議案の審議を終了した旨を宣し、閉会とした。

令和3年4月27日(水)
議長 支部長 冨塚和衛

③安全登山ハンドブックについて
④中華民国山岳協会からの感謝メッセージについて

【役員会議事録】

■令和3年5月役員会は、コロナ感染拡大により中止する事とした。

■令和3年6月定例役員会■

日時：6月22日(火) 18:00～

場所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、千葉、冨塚、柴崎、佐藤、横山、草野、中里、鳥山 計9名

《報告事項》

イ 総務・財務委員会からの報告

- ・支部連絡会議(zoom会議)参加報告
- ・第1回全国古道会議(zoom会議)参加報告について
- ・令和3年度各委員会委員名簿について
- ・令和3年度宮城支部役員連絡網について
- ・総会 ZOOM 会議招待参加報告について
- ・第1次調査対象の古道について

ロ 山行集会委員会からの報告

- ・6月梅雨払い山行実施結果について

ハ 会報・編集出版委員会からの報告

- ・令和3年度「宮城山岳通信」及び「宮城山岳」発行予定について

ニ 他委員会からの報告

《審議事項》

①全国山岳古道調査体制について

古道担当は、従来通り冨塚を当てたい旨、支部長から提案があり了承される。

②令和3年度月例山行計画及び担当者について

千石支部長(案)をベースに、例年通り実施する事と了承される。具体的には、古道調査を意識した山行を実施

《その他》

①花王ヘルシアの寄付について

②本部 YouTube オンライン企画案内について

■令和3年7月定例役員会■

日時：7月14日(水) 18:00～

場所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、千葉、冨塚、柴崎、佐藤、草野、中里、横山、鳥山 計9名

《報告事項》

イ 総務・財務委員会からの報告

- ・信州山小屋応援プロジェクトについて
- ・「オンライン企画」第2回語り場の案内
- ・令和3年度各委員会委員名簿について
- ・令和3年度宮城支部役員連絡網について

ロ 山行集会委員会からの報告

①7月初夏山行(宮城の古道・関山峠)実施計画について

②8月夏山山行(翁山)実施計画について

ハ 会報・編集委員会からの報告

- ・「宮城山岳」第25号寄稿のお願い

尚、「宮城山岳通信」はニューズレター的な側面と経費削減の点から、今後はメール配信に移行する事で承認された

《審議事項》

①来年度の公益事業について

公募型に拘らず、楽しめる山行を企画したい旨、支部長から提案があり了承された。

②今後の月例山行について

コロナの為、公益事業は実施せず共益事業としての月例山行を実施する事と了承された。

③古道調査の今後について

第1次調査古道として3ルートリストアップされた。本部との ZOOM 会議後、具体的動き出すこととした。

《その他》

①会員等の動向

②月例山行報告の H.P 掲載に関するお願い

(事務局報告)

■令和3年8月定例役員会は、コロナ感染に

よる「まん延防止等重点措置」が再度適用され中止する事とした。

【宮城支部山行報告】

☆梅雨払い山行（共益事業）

実施日 令和3年6月20日

山 域 青麻山（799m）

コース 北原尾登山口（420m）～カタクリの丘（641m）～756山（756m）～あけら山（820m）～青麻山（799m）～往路下山

所用時間 登り2時間40分

下り1時間40分

参加者 （会員）千石信夫、千葉正道、冨塚和衛、冨塚眞味子、草野洋一、横山哲、鳥田笑美、加藤知宏（支部友）村上敏郎、鳥田伊志、津久井宏、（ゲスト）能勢（12名）

報告者 千石信夫

青麻山の北原尾登山口からのルートは、「蔵王古道の会」の皆さんが整備されたルートである。支部の企画では歩いていないので、今回このルートを選ぶことにした。

蔵王町ふるさと文化会館の駐車場に朝8時に12名の参加者全員が集合した。登山口駐車場は広くないので、車を整理して登山口に向かう。遠刈田温泉を経由し北原尾の開拓地の牧場に向かい、牧場敷地の一画の駐車場に車を止め登山開始。

駐車場から登山口までは西方の眺めがよく、不忘山、屏風岳、刈田岳、水引入道、烏帽子岳など見渡せるのだろうが、生憎曇に遮られていた。下別当登山口のルートからすると、とても解放感があって快適なところである。登山口からは風通しの良い広葉樹林帯の中を歩く。しばらくすると送電線の塔をくぐり抜け、間もなくカタクリの丘に着く。ここからも展望がよく一休み。“カタクリの丘”というからには、群生しているのだろうか、呟きながら休憩。

ここから尾根伝いに進むと“遠白広場”がある。白石と遠刈田の境ということだろう。立派な道標が出来ていた。青麻山方面と白石方面、遠刈田方面の分岐点となっている。道すがら、山椒の実が気になり思わず口に含む。香りと痺れるところがいい。

しばらくすると756山展望台があり、ここから蔵王の山々は勿論、遠刈田温泉の町が一望できる気持ちの良い所なので休憩する。折角なので記念写真となり、千葉副支部長のご友人でゲスト参加の能勢さんに撮影していただいた。写真の腕前はプロ並みだそう。ここから756山までの道は、急な登り一辺倒となる。756山を過ぎ、あけら山に到着、休憩後、青麻山までの鞍部となる急な下り坂が長く感じられた。最後の登りで青麻山に到着した。山頂から東方の眺めは雲の中であった。



山頂では、昼食後に参加された皆さんに、冨塚支部長の後任に千石が支部長になったことをお知らせし、ご挨拶をさせていただいた。昼食後、同ルートを無事下山。登山口で解散した。

感想——全行程の登山道はよく整備されており快適であった。梅雨の時期でしたが、まさに梅雨を払った山行となった。

☆初夏山行（共益事業）

実施日 令和3年7月17日

山 域 関山街道（宮城県—山形県）

参加者 （会員）千石信夫、宇都宮昭義、冨

塚和衛、富塚真味子、太田正、横山哲、佐藤昭次郎、千葉正道、遠藤幸壽、草野洋一、
(支部友) 村上敏郎 (11名)

報告者 草野洋一

7月の山行は公益事業として登山教室を予定していましたが、コロナ禍に対応して教室は中止。代わりに共益事業として明治15年に関山隧道(旧国道)が開通するまで、山形県と宮城県を結ぶ通商路として使われていた古道の一つ、山形県境に跨る関山街道(嶺渡り)を歩きました。

朝8時、熊ヶ根駅(仙山線)に集合したあと、国道48号線の宮城県側の街道入り口(坂下御番所跡)の駐車場に移動。3台は山形県側の下山口に車をデポ。快晴の中、出発(8:50)～旧国道交差部(9:15)～県境尾根(10:45)～関山ピーク(大峠812m)～昼食(11:30～12:05)～山形県側下山口・林道(13:10)～分乘して宮城県側入り口駐車場へ～14時、現地解散。

出発前に「関山街道フォーラム協議会」所属の遠藤会員から「関山街道」の解説をしてもらいました。同協議会は毎年、街道の草刈り等の整備をしているとのこと、宮城県、山形県ともに藪漕ぎもなく歩きやすかった。旧国道との交差部には「開発殉難之地」という3メートル余の大きな碑があった。



この先、梯子を使って上部に出て、樹林帯の中を行く。分水嶺の県境に11時前に着き、北側に10分ほど行くと関山(大峠)。樹林帯

で見晴らしがないので記念写真を撮って下山。途中の広めのスペースがあるところで昼食をとる。山形側に入ってから泉ヶ岳や月山方面を望見できた。下山コースは、なだらかで歩きやすい。宮城側入り口と山形側下山口に渡渉があったが、水量は少なく石伝いに渡れた。

全体を通してコースは歩きやすく、国道が開通するまで頻繁に使われていたと思わせる山道だった。

☆夏山山行(共益事業)

実施日 令和3年8月7日(土)

山域 翁山(翁峠) 1075m

参加者 (会員)太田正、千石信夫、横山哲、加藤知宏、塚和衛、富塚真味子、鳥田笑美、(支部友)津久井宏、村上敏郎、鳥田伊志 (10名)

報告者 太田正

翁山は宮城・山形県境の山で、山形県側では「翁山」、宮城県側では「翁峠」と呼んでいたが、調べてみると国土地理院は2012年11月12日に山名を「翁山」と変更したそうです。宮城県に住んで居るものとしては、昔から慣れ親しんでいた山名が変わったことは大変残念な気がします。

行程は仙台からハリマ小屋登山口まで約3時間位とっていたが、少し早く到着する。



準備をして9時15分スタート、10時40分には山頂直下、祠のある場所に着き、朝早いことから昼食をとる。

ゆっくり休憩して11時30分出発、山頂を経て途中の稜線歩きは快適で、登山道の脇には山百合のオンパレード（前週あたりが最盛期）。花を楽しみながら鞍部まで下り、吹越山ハリマ小屋分岐から急坂を下山、不老長寿の泉でブナ林から流れ出る冷たい湧水で顔を洗ったりしながら休憩し、ハリマ小屋到着は13時10分だった。

この山は、会員であった宮崎の故後藤邦慶さんから40年程前に、“太田さん、翁峠を案内するから是非いらっしゃい”と声を掛けてもらい、気になっていたが行く機会がなかったことを思い出し、数年前に宮城側から登りました。しかし、林道は通行止めになっている他、道路状態は悪く、小型四駆以外の車で走行不能だった。

その後、このコースを登山した際、不老長寿の泉は、もっと水量があったような気がしていたが、少ないのに驚きました。人間の記憶など当てにならないものです（私だけかも）。

宮城側からの登山者は前述通りの状況で少ないと思われます。山形側からは逆に多いようで、低山（1075m）で盛夏にもかかわらず今回も何組かのグループと会いました。我々もゆっくり歩いて休憩も含めて4時間弱の時間で、里山を少し延長したような手軽に楽しめる感じです。季節を変えて、また登ってみたい山でした。

【支部以外の関係行事参加報告】

2021年度 第1回支部連絡会議

報告者 富塚和衛

令和3年4月10日（土）、本部主催の第1回支部連絡会議がオンライン会議（ZOOM）として開催された。

古野淳会長の挨拶のあと、会務報告に移った。（1）令和3年度事業計画について／永田常務理事 （2）令和3年度予算について／古川常務理事 （3）記念事業委員会の報告／飯田理事 （4）指導者養成講習会の報告／

坂井副会長。このあと意見交換が行われた。

尚、同日、オンラインで「第1回全国山岳古道会議」が開かれ、山岳古道プロジェクトの近藤氏から進捗状況並びに今後のスケジュールなどが報告された。

三角点 山名考

7月に開かれた役員会に於いて、前記した夏山山行の目的地の名称で、喧々諤々の論議を呼んだ。太田会員の報告にあるように、宮城県側で「翁峠」と呼んでいた山を、国土地理院が山形側で呼んでいた「翁山」に変更したことが発端だった。

日本国内の山名は地域によって「1山2名」や「1山3名」の呼び名が残っている。私も知らなかったが、あの大雪山で有名な「白馬岳」は信州側の呼び名で、越後では「大蓮華山」、越中では「上駒ヶ岳」と呼んでいたという。また、上高地から見える「焼岳」は信州（長野県）側の名称で、飛騨（岐阜県）側では「硫黄山」と呼ばれていたという。

また地元でも宮城県側で「船形山」と呼んでいるが、山形県では「御所山」と呼ばれていた。ひとつの山が、地域により、また歴史的な謂われから複数の山名で呼ばれていることに、あらためて気づかされた。

ここで山名を記載する国土地理院の手続きが分かる資料を見つけた。日本山岳会会報『山』472号（1984年10月20日発行）に、国土地理院OBが「国土地理院発行の『地図』の山名について」と題して寄稿していた。

それによると――

「国土地理院では、地図上に記載する地名は、実際に現地で使用されており、かつ一般的にも通用するものを採用するという方針のもとに、地元市町村長から証明印を押した地名調書を提出して頂いております。山名その他の自然地名も一般にこの方法にもとづいて、地名調書記載のものを採用し注記しております。しかし、たとえば同一の山であっても、他の

市町村にまたがる場合とか、あるいは同一の市町村であっても時期を異にして地名調書が提出された場合、山名が異なる場合があります。このような時には、再度関係市町村に照会して確認をとっております」とあった。

実は、この寄稿は同報2号前『山』470号(1984年8月20日発行)の巻頭に、今西錦司氏が「正しい山名を守るものは誰れなのか」を執筆、それに対する国土地理院側の見解を述べたものであった。今西氏はこの中で――“(前略)国土地理院の採用している山名にも往々にして間ちがいがある。だいたい地図上の地名を改変したり、新しく採用したりするときは、それ相当の理由があることだから、それを明らかにしてもらいたいのだが、(後略)”と、それまでの由緒ある山名が意味もなく変わってしまうことに今西氏が一石を投じたのである。

確かに国土地理院が市町村に確認をとる手続きは分かるが、歴史ある山名を二者択一で決めることは、どうなのだろうか? “一山一名”にすれば、登山者にとって分かりやすくなるのは頷ける。

しかし、もう一つの山名を見捨てていいのだろうか。それは地元ふるさとを捨てるような気がしてならない。

今、まさに日本山岳会は“古道”調査を全国的に展開している。先人たちが歩いた道の再発見に取り組んでいる。そうした時だけに、先人たちから綿々と受け継いできた山名の維持と保存をどうすればいいのか、考えさせられる役員会であった。(文責:鳥山文蔵)

【今後の行事予定】

○2021年10月

☆10月13日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

○2021年11月

☆11月18日(木)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

○2021年12月

☆12月5日(日)初冬山行

☆12月12日(日)支部晩餐会

☆12月中旬

「宮城山岳通信」第25号発行予定

☆12月22日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

(事務局担当)

原稿募集のお知らせ

宮城県に緊急事態宣言が発令され、コロナ禍の終息が見えない状況です。支部活動も山行計画や会合などが自粛されております。

そこで、次号「宮城山岳通信」第25号に原稿をお寄せいただけないでしょうか。テーマは「昔の山(山行)の思い出」、「ステイホームの過ごし方」、また「コロナ禍での提言」など、字数800字以内の原稿を募集します。

[原稿送り先]

会報・編集出版委員会 鳥山文蔵 宛

○メールの場合 yrdbf275@yahoo.co.jp

○郵送の場合 〒983-0841

仙台市宮城野区原町3-2-57

【編集後記】

新型コロナウイルス感染者が一気に増え、宮城県に再度の緊急事態宣言が発令されました。

さて『宮城山岳』第25号でお知らせしました通り、この『宮城山岳通信』第24号よりメール配信とさせていただきました。今後、会員、支部友の皆様にお手を煩わすこととなりますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

『宮城山岳』第25号、『宮城山岳通信』第24号が小生のデビューとなりましたが、まだ不慣れで、発行に手間取っている始末です。皆様にご迷惑をお掛けしますが、何卒よろしく願い申し上げます。

会報・編集出版委員長 鳥山文蔵

宮城山岳通信 第 24 号

発 行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2021 年 9 月 10 日

発行人 千石信夫

会報・編集出版委員会 鳥山文蔵、千石信夫、冨塚和衛、細川光一、三宅 泰

事務局 〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字畑中 9-12 (冨塚宅)